

エコアクション21 環境経営レポート

(対象期間：令和4年10月～令和5年9月)



エコアクション21
認証番号 0009852

附田建設株式会社

初版作成	発行日	平成25年12月3日
更新版作成	発行日	令和5年10月20日

目次

表紙	1
目次	2
1 ご挨拶	3
2 環境経営方針	3
3 組織の概要	4
4 実施体制図	5
5 環境経営目標	7
6 環境経営計画	10
7 環境経営目標の実績	12
8 環境経営計画の取組結果と その評価及び次年度の取組内容	13
9 環境関連法規等の遵守状況	15
10 代表者による全体評価と見直し結果	15
11 活動状況	16

ご挨拶

附田建設株式会社は、青森県の六ヶ所村に本社を置く地域密着型の企業です。現在、土木建築工事を主に東北各地での事業展開を図っております。

また、災害時におけるインフラの早期復旧を目的とした、災害に強い企業作りを推進しています。日常の業務だけでなく、SDGs のアクションを起こすべく、環境保全活動やボランティア活動から始め、地域住民や関係機関と交流を重ね社会貢献を図っています。

環境経営方針

1 基本経営理念

私たちは、「お客様の笑顔が見えるモノづくり」を企業理念に、自然環境に配慮した事業展開を実施しております。新体制への移行に伴い、これまで以上に環境負荷への低減を加速させていきます。

2 環境経営への行動指針

(1) 環境マネジメントシステムを確立・運用し継続的に改善します。

(2) 環境への取組について以下の事項を重点施策として継続的に実施します。

- ① 電力及びLPGの削減に力を入れます。
- ② 業務車両のエコドライブ実践により燃料の削減に努めます。
- ③ 廃棄物排出量の削減とリサイクル率の向上に努めます。
- ④ 水の効率的な利用により節水を励行します。
- ⑤ 化学物質の有無に関わらず従業員への教育を徹底します。
- ⑥ 事務用品等はエコマーク商品を積極的に購入します。

(3) 工事現場における廃棄物の削減、再利用により大幅削減に努めます。

(4) 河川、湖沼の水に関連する生態系の保護・回復を行います。

(5) 事業活動に関する環境関連法規等を遵守します。

(6) 環境に配慮した機器を導入し作業の効率及び軽減を図ります。

この環境経営方針は、社員全員に徹底するとともに、広く一般へ公開します。

作成日：令和5年4月1日

附田建設株式会社

代表取締役

千田昇

組 織 の 概 要

1 事業所名

附田建設株式会社

2 代表者名

代表取締役 千 田 昇

3 所在地

本 社 青森県上北郡六ヶ所村尾駸字二又23-2

資材置き場・倉庫 青森県上北郡六ヶ所村尾駸字二又86-20

4 環境管理責任者等氏名及び連絡先

環境管理責任者 安全課長 矢岡 哲章

担 当 者 事務局 赤川 茂

同 松崎 祐一

TEL : 0175-72-4111

FAX : 0175-72-2522

E-MAIL : shigeru_akagawa@tkd-grp.co.jp

5 事業活動の内容

総合建設業 土木、建築、大工、左官、とび・土工、石工、屋根、電気、
管、タイル・れんが・ブロック、鋼構造物、鉄筋、舗装、しゅん
せつ、板金、ガラス、塗装、防水、内装仕上げ、熱絶縁、造園、
建具、解体、機械器具設置

資本金 6000万円

6 事業規模

売上高 2,071,000 (単位：千円)

従業員 69名

7 対象範囲（認証、登録範囲）

附田建設株式会社 全組織、全活動を範囲とする。

場所：本社、倉庫、資材置場及び工事現場

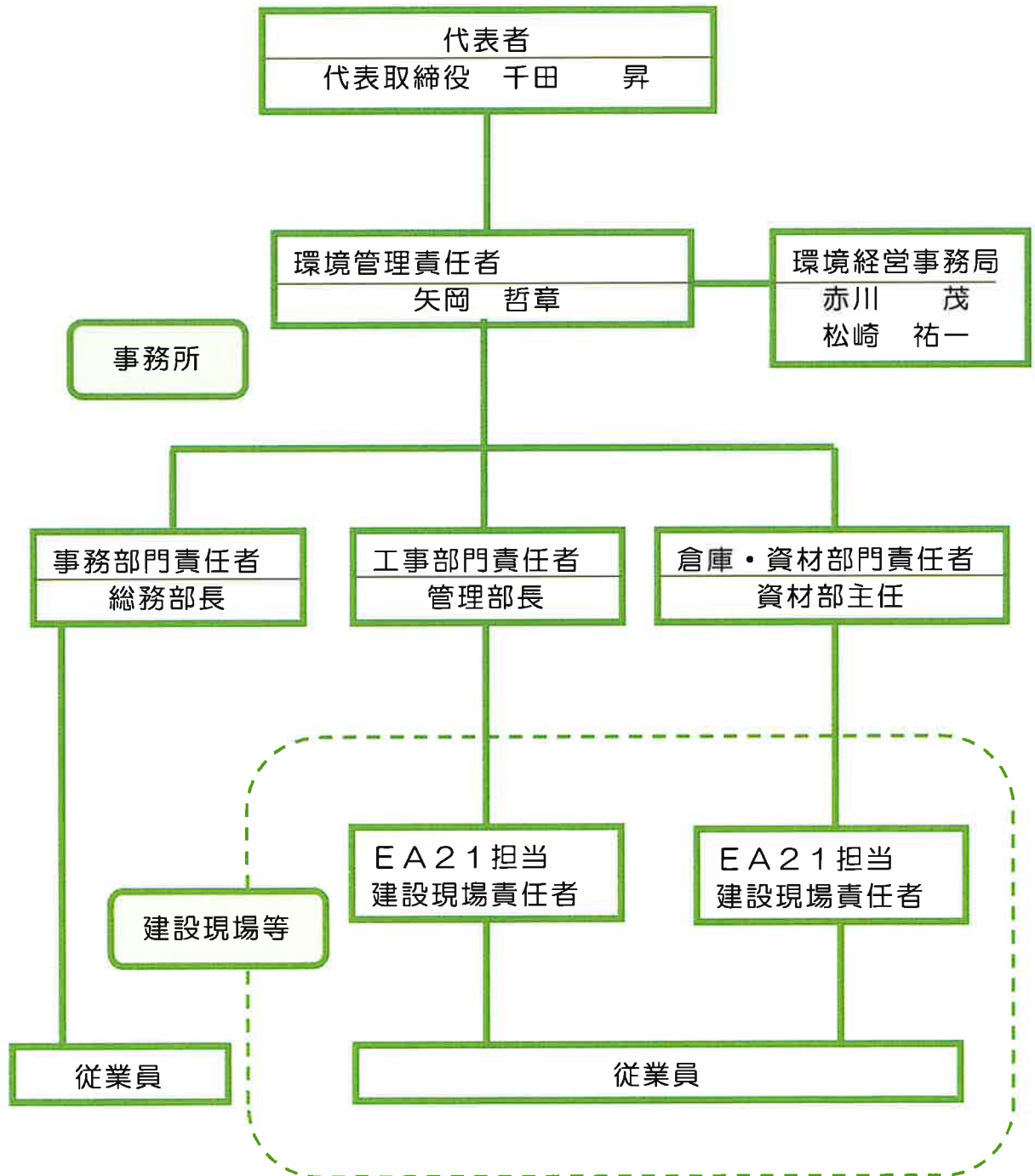
人員：全従業員

8 事業年度

10月1日～翌年9月30日まで

実施体制図

1 配置表



2 役割・責任・権限

職名等	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営における課題とチャンスの明確化 ・ 環境経営方針の策定及び見直し ・ 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・ 全体の評価と見直しの指示 ・ 環境管理責任者の任命など実施体制を構築 ・ 環境経営目標の設定を承認 ・ 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営システムの構築・実施・管理 ・ 問題点の是正、予防措置の指示・確認 ・ 環境経営計画書の承認 ・ 環境経営の取組結果を報告 ・ 全体の評価と見直しの実施状況を報告 ・ 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局 ・ 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・ 環境経営の実績集計 ・ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・ 環境関連簿冊の作成、保管 ・ 環境経営レポートの作成・公開
各部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練の実施、記録の作成 ・ 環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・ 環境経営方針の部内への周知 ・ 教育訓練の実施 ・ 問題点の発見、是正、予防処置の実施
EA21 担当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営方針の部内への周知 ・ 教育訓練の実施 ・ 問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・ 規則を遵守し、自主的・積極的に環境活動へ参加

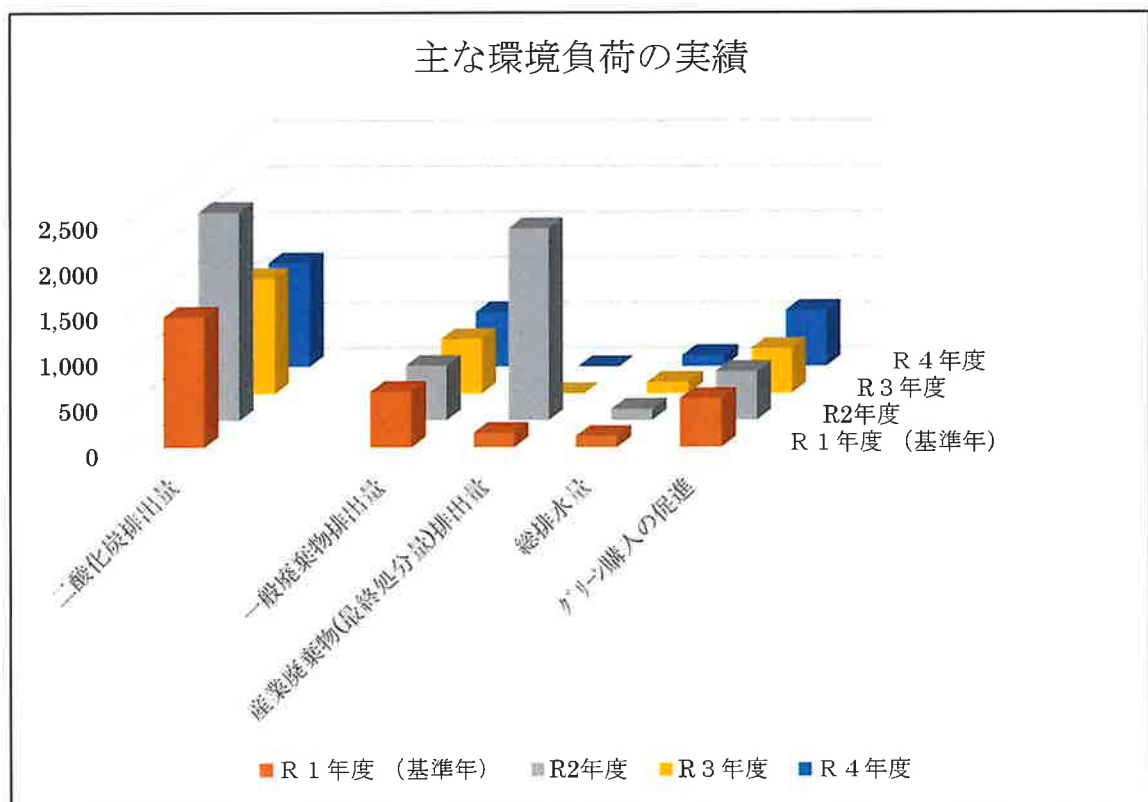
環境経営目標

1 主な環境負荷等の実績

(1) 主な環境負荷の実績

	単 位	R 1 年度 (基準年)	R2 年度	R3 年度	R 4 年度
二酸化炭排出量	Kg-CO2 /年	1,429,502	2,288,739	1,267,675	1,140,683
一般廃棄物排出量	Kg/年	608	600	596	596
産業廃棄物(最終 処分量)排出量	t/年	15.60	211.08	0	0
水使用量	m3/年	119	123	120	119
グリーン購入の促進	円/年	531,652	534,409	489,131	614,600

図 1

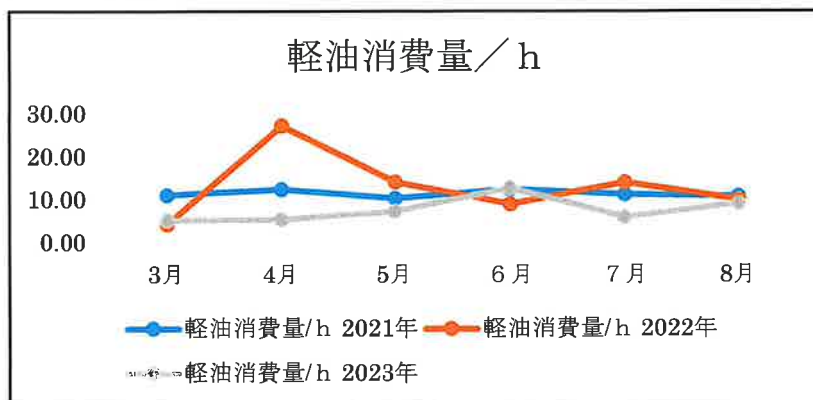
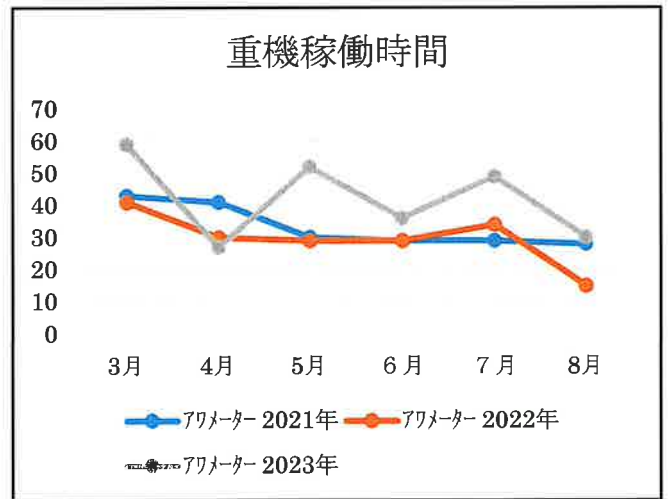
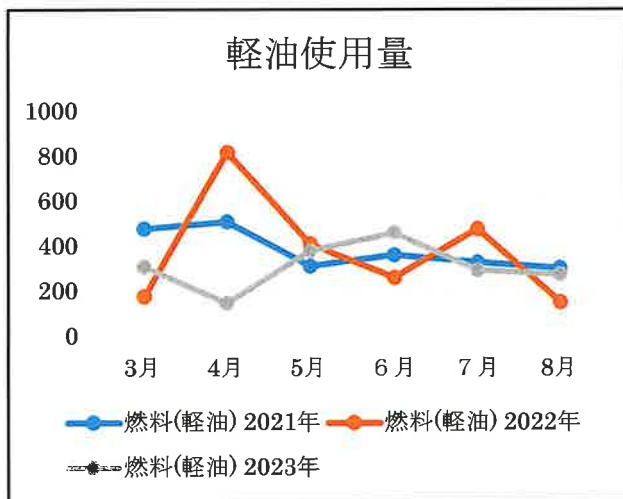


(2) 重機、車両の環境負荷実績

ア 重機 (HB205)

年	項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
2021年	燃料(軽油)	476	507	309	360	326	300	2278
2022年	燃料(軽油)	176	817	409	260	476	150	2288
2023年	燃料(軽油)	306	145	378	458	291	271	1849
年	項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
2021年	アワメーター	43	41	30	29	29	28	200
2022年	アワメーター	41	30	29	29	34	15	178
2023年	アワメーター	59	27	52	36	49	30	253
年	項目	3月	4月	5月	6月	7月	8月	平均
2021年	軽油消費量/h	11.07	12.37	10.3	12.41	11.24	10.71	11.4
2022年	軽油消費量/h	4.3	27.2	14.1	8.97	14	10	12.9
2023年	軽油消費量/h	5.2	5.37	7.3	12.7	5.9	9.0	7.3

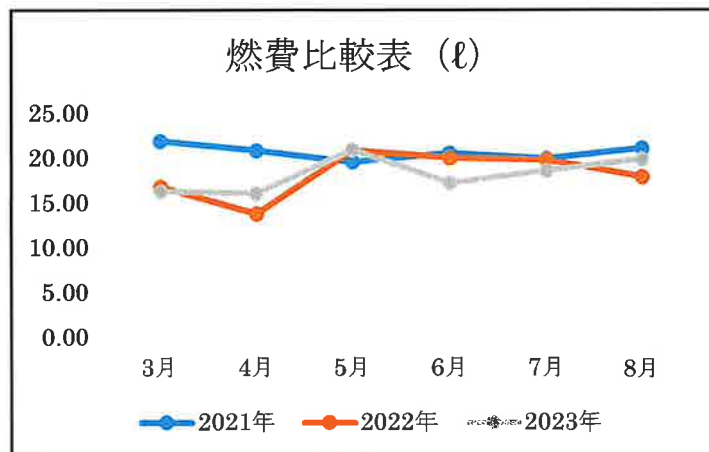
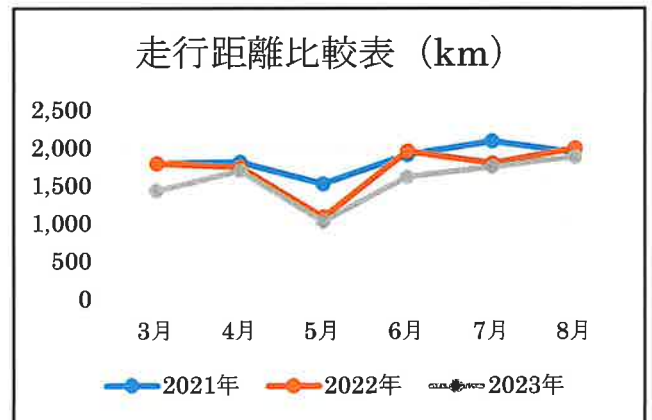
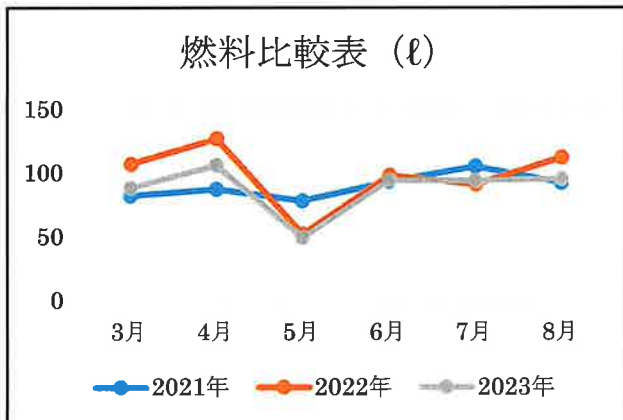
※ 検証期間6カ月



イ ガソリン車(巡回車両)

年 度	項 目	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	計
2021 年	燃 料	82	87	78	93	105	92	537
2022 年	燃 料	107	127	52	98	91	112	587
2023 年	燃 料	88	106	49	94	94	95	526
年 度	項 目	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	計
2021 年	走行距離	1,791	1,807	1,521	1,903	2,086	1,933	11,041
2022 年	走行距離	1,791	1,742	1,083	1,957	1,793	1,997	10,363
2023 年	走行距離	1,428	1,695	347	1,612	1,743	1,881	9,382
年 度	項 目	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	平均
2021 年	燃 費	21.84	20.77	19.50	20.46	19.87	21.01	20.56
2022 年	燃 費	16.74	13.72	20.83	19.97	19.70	17.83	17.65
2023 年	燃 費	16.23	15.99	20.88	17.15	18.54	19.80	17.84

※検証期間6カ月



2 環境経営目標の設定

当社では、令和4年度を基準年度として令和5年度から令和7年度までの3年間の単年度の環境経営目標を表2のとおり設定し、環境経営活動に取り組んでおります。

表2 環境経営目標

項目	基準年度	単年度目標（削減率）			
	4年度	5年度	6年度	7年度	
二酸化炭素排出量 kg -CO ₂	1,140,683	1%減 1,129,276	2%減 1,117,869	3%減 1,106,462	
一般廃棄物排出量 kg	596	1%減 590	2%減 584	3%減 578	
産業廃棄物(最終処分量)排出量 t	10	0.5%減	1%減	1.5%減	
再資源化率%	92	92.5	93	93.5	
水使用量 m ³	119	維持する	維持する	維持する	

- ※ 化学物質については使用量が極めて少なく、また仕様で使用量が決められており自らの判断で削減することができないことから「化学物質を適正に管理していることを定期的を確認する」などの維持管理を行う。
- ※ 「自らが施工・販売・提供する製品，設備，土木建築物等の環境性能の向上及びサービスの改善」については、「環境に配慮して適正に施工していることを定期的を確認する」などの維持管理を行う。

環境経営計画

電気使用量の削減	冷暖房機の設定温度（夏 27℃、冬 21℃）で運用
	クールビズ、ウォームビズを推奨
	無人となるエリアの照明を消灯
	パソコンの省エネ設定を実施
	退社時にパソコン、周辺OA機器の電源をオフ
	照明等のスイッチに節電表示を実施
ガソリン・軽油の燃費向上	急発進、急加速をなくし、エコドライブの励行
	アイドリングストップの徹底
	不要な荷物、工具の荷積み禁止
	タイヤの空気圧等の車両点検、整備を実施

	積極的なエンジンプレーキの使用
灯油使用量の削減	不在時の暖房器具の確実な消火
ガス使用量の削減	ガスコンロに節約の表示をして削減を促す
	ガス給湯器に節約の表示をして削減を促す
一般廃棄物の削減	ゴミの分別でリサイクル化を徹底
	キャップ、プルタブの収集活動への協力
	両面コピーの推進（掲示を含む。）
	コピー機のトレイに収納し活用
	プレビューの活用により印刷ミスを防止
建設廃棄物の削減	マニフェストに基づいた適正な処理
	材料発注量の無駄をなくす
	分別の徹底で産業廃棄物の再資源化率を向上
水資源の節減	節水のための表示の実施
	トイレの水使用削減を工夫する
	水の出しっぱなしを禁止
環境保全活動	化学物質の最小限の使用及び適正な管理
	環境重視型製品の使用
	環境ボランティア活動への積極的な参加
グリーン製品の推進	積極的なリサイクル製品の購入
	環境に配慮した製品の購入及び交換

環境経営目標の実績

当社では、環境経営目標の達成状況の確認・評価を行いました。

車両及び重機の増加により二酸化炭素の排出量が多くなりましたが、「主な環境負荷等の実績」で示したように、車両及び重機を抽出し検証を続けた結果、昨年よりも効率良く稼働させることができました。

工事現場では二酸化炭素及び産業廃棄物排出量はありましたが、再資源化率の目標達成できたことが大きな成果といえます。

表3 当該年度の環境経営目標の達成状況

項目	単位	基準値	当該年度		環境目標達成状況	
			削減・増加率(%)	目標値		実績値
二酸化炭素	kg-co2	1,429,561	3%減	1,386,673	1,140,683	達成
一般廃棄物排出量	kg	608	3%減	590	596	未達成

産業廃棄物(最終処分量)排出量	t	15.6	1.5%減	15.37	0	達成
再資源化率	%	90.6	1.5%増	91.9	100	達成
水使用量	m3	119	1%減	118	119	未達成
グリーン購入	万円	53.1	3%増	54.8	61.5	達成

注：購入電力の排出係数は平成 30 年度実績(R2.1.7 環境省・経済産業省公表)東北電力(株)の調整後排出係数、事業者全体数値 0.523を使用しています。

環境経営計画の取組結果とその評価 及び次年度の取組内容

1 本社事務所

方針	環境経営 目標項目	取組内容	実施 状況 評価	取組結果及び次年度の 取組内容
二酸化炭素排出量抑制	電力の二酸化炭素削減	<ul style="list-style-type: none"> ・空調の適正化(冷房 27℃暖房 21℃) ・使用していない部屋の空調停止 ・ウォームビズで暖房の使用を抑える。 ・終業 30 分前に熱源機を停止し装置内の熱を利用する。 ・照明は昼休み、残業時等は消灯 ・使用頻度が低いトイレ等の照明は、普段は消灯し、必要時のみ点灯する。 ・OA機器を省電力設定にする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の消費電力を抑えることができたため年間としても目標を達成することができた。 ・次年度も取組を継続する。
	車両用燃料等の二酸化炭素削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ふんわりアクセル「e」スタート ・早めのアクセルオフ ・不要な荷物は積まない。 ・タイヤの空気圧をチェック ・アイドリングストップの実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員が使用する社有車の燃料消費が大きいため呼びかけにより、年間の目標達成に至った。 ・次年度は、特にエコドライブ推進活動などを継続する。
	LPG 等の二酸化炭素削減	<ul style="list-style-type: none"> ・給湯器の使用を食器洗いに限定 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・月別、累計共目標を達成することができた。 ・次年度も取組を継続する。
廃棄物排出量	一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・商品購入時、簡易包装を優先する。 ・使用済みコピーの裏側を使用する。 ・OA機器の故障時は、修繕による長期使用に努める。 ・資料配布時は、必要部数となるよう事前確認を徹底する。 	×	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、雑誌等の再資源化だけでは限界があり、他の削減方法を検討する必要があります。

削減	再資源化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー機等のトナーカートリッジのリサイクルを図る。 ・紙、金属缶等の分別回収ボックスの配置により、リサイクルを徹底する。 ・ペットボトルのキャップやプルタブを積極的に収集する。 ・ファイル等は再利用できる事務用品を使用する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・分別、再資源化については浸透しているため問題はありません。 ・次年度も取組を継続する。
	節水・排水の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・節水の励行を呼びかける。 ・水道管からの漏水を定期的に点検 ・有害物質等の混入防止 ・排水口の定期的な清掃を実施 	×	<ul style="list-style-type: none"> ・削減には至らなかった。次年度は取組を継続する。
	グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> ・環境ラベル認定製品を優先購入 ・省エネ基準適合製品の購入 ・製品・サービス等の積極的活用 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・購入金額は大幅に上がったが、グリーン製品率が2%下がった。取組を継続する。

2 建設現場等

方針	環境経営目標項目	取組内容	実施状況評価	取組結果及び次年度の取組内容
二酸化炭素排出量抑制	電力の二酸化炭素削減	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の工法を変更又は見直し、エネルギー消費を抑える。 ・規模に応じた建設機械等を選択し、効率の良い作業に心がける。 ・昼休み、残業等で不要な照明を発見した場合は消灯に心がける。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・現場事務所を設置する工事が少なくする。
	建設機械・車両用燃料等の二酸化炭素削減	<ul style="list-style-type: none"> ・建設機械の過積載が無いようチェックを徹底する。 ・資材運搬経路の検討により、燃費の削減に努める。 ・タイヤ空気圧の適正維持を図る。 ・建設機械等のアイドリングストップ及び省エネ運転を推進する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪作業による軽油使用量の増加で12月から2月までは、目標値を超えたが、他の月は目標をクリアすることができた。 ・次年度は、重機購入時は、省エネタイプ導入に努める。
	灯油・LPG等の二酸化炭素削減	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティやアロー、フロート等を見直し、施工期間を短縮する。 ・工程表の事前確認により、重機の効率的な運用に心がける。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季における灯油の使用量が若干増えたものの、目標をクリアすることができた。取組を継続する。
廃棄物排出	産業廃棄物の発生抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・建設資材発注時に数量を二重チェックし、廃棄を抑制する。 ・施工時の温度影響による品質劣化を防ぐため温度管理を徹底する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の最終処分量が各現場において無く、コンガラ等で再利用した。

出 量 削 減		<ul style="list-style-type: none"> ・商品購入時は、簡易包装の製品を優先及び業者に依頼する。 ・在庫管理の徹底により、在庫品を減らす。 		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も取組を継続する。
	再資源化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・建設現場から出る廃棄物の分別を徹底しリユース、リサイクルに努める。 ・紙、金属缶等の分別回収ボックスを配置することで、再資源化を図る。 ・建設副産物の再利用率向上のため創意工夫をする。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・工事現場での再資源化率は高い値となり、良好な状態が続いている。 ・次年度も取組を継続する。
	産業廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物管理票を使い適正な廃棄物処理を行う。 ・廃棄物を運搬する際に過積載が無いように管理、徹底する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルスケールで測定し、過積載が無いよう考慮している。 ・次年度は取組を継続するとともに、地域の産業廃棄物撲滅キャンペーンに積極的に参加する。
節水・排水の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・建設機械を洗車する際、泥等を事前に落とし節水に心がける。 ・洗車等に使用するホースの先にストッパーを付ける。 ・施工方法等を見直し、水質汚濁の少ない方法に変更する。 ・河川、海等の近くでの作業は、油吸収マット、中和剤の備えを徹底する。 ・排水路に沈殿槽を設置し、排水汚濁を緩和する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・工事車両の洗車には予備洗いとして貯水場の水を使用し、その後、洗車機を使用した節水に努めている。 ・次年度も節水活動を継続する。 	
環境に配慮した施工の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音、低振動型建設機械の使用 ・防音、防振設備の設置、管理により防止する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情等はありませんでした。 ・次年度も取組を継続する。 	
化学物質の管理推進	<ul style="list-style-type: none"> ・建設現場で使用する化学物質は、流出防止対策を徹底する。 ・化学物質の使用は最小限の使用とする。 ・保管は場所を決め、在庫量を確認する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・適正に管理されておりました。 ・次年度も取組を継続する。 	
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の少ない建築材（合板型枠などの木材、高炉セメント、エコセメント、再生素材など）の調達に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も環境に優しい材料の使用を積極的に取り入れる。 	

※ ○：月次達成 50%以上十年間達成、△：月次達成 50%未満十年間達成
×：年間目標未達成

環境関連法規等の遵守状況

1 環境関連法規・条例等の遵守状況の確認・評価結果

環境法規制等の名称	要求事項	遵守状況の確認	判定
建設リサイクル法	対象建設工事の届出	書類確認	○
	発注者への書面による計画等の説明及び完了報告	書類確認	○
廃棄物処理法	産廃収集運搬・処理業者との契約、許可証等の保管	書類確認	○
	産業廃棄物管理票の管理義務	書類確認	○
	自社による運搬時の表示、書類携行	車両確認	○
グリーン購入法	環境に配慮した物品等の調達	書類確認	○
	省エネルギー基準適合製品の購入	順次購入	○
	再生材料、間伐材等の製品購入	順次購入	○
オフロード法	特定特殊自動車排出ガスの抑制措置	現場、書類確認	○
消防法	危険物保管の指定数量以上の許可	現場、書類確認	○
	少量危険物及び消防阻害物質の届出	現場、書類確認	○
	貯蔵所や取扱所の基準遵守	現場、書類確認	○

2 環境関連法規制等の違反・訴訟等の有無

環境関連法規制等の取りまとめ及び遵守状況結果を用いて、環境管理責任者が確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局からの違反等の指摘、住民からの苦情、訴訟等についてもありません。

代表者による全体評価と見直し結果

従業員の健康を守り元気に働いてもらえるように、自己管理だけでなく会社として出来ることを模索し、熱中症予防、ウイルス対策等を実施してきました。

皆が元気に働ける職場を創れた事は、発注者様並びに関連企業様の協力によるところと感謝致します。

軽油やガソリンの削減については、前半に未達成が多く、後半となり達成できたことで、CO2 排出量を累計で1割近く削減する事ができ、今後の活動に大きく影響を与えるものと考えます。気を緩めることが無いよう次回の目標達成に向け頑張りましょう。

活動状況

1 地域清掃奉仕活動参加 (R5. 6. 10)



2 排出油防除訓練 (R5. 7. 19)



3 泊地区タタミ岩清掃奉仕活動 (R5. 9. 15)

